

東都医療大学図書館通信

ぜひ早めの国試対策を!

～ DVD『基礎からのナビゲーションシリーズ』と国家試験問題集～



『人体の基礎』全7巻/医教



『疾病の基礎』全10巻/医教



国試問題集、各出版社から続々発売中!

4年生の皆さん、いよいよ国家試験受験生の学年となりましたね。5月から実習開始、看護研究を先行された方は、テーマ選びから研究計画、文献収集などかなりタイトなスケジュールではないでしょうか。そんな中、ちょっとでも時間ができたなあと思ったら、ぜひ「国家試験」に目を向けましょう。スキマ時間を上手に活用することで、学力を身につけていくことができます。昨年度受験した学生さんたちからは、「問題集を解いただけではダメだった」「教科書を開いた人が勝ちだった」というメッセージが寄せられました。また、国家試験は年々難しくなっているとも耳にします。ぜひ、先輩たちからのアドバイスを活かし、基礎から固めていきませんか。何から手をつけていいかわからない方には、DVD『基礎からのナビゲーションシリーズ』(医教)をお勧めします。「人体の基礎」(全7巻)と「疾病の基礎」(全10巻)とがあり、1巻3時間程度、メビウス教育研究所塾長の蜂谷先生がわかりやすく解説してくださっています。この4月から毎日図書館へ通い、すでに視聴し終えた方もいらっしゃいます。まだみてないという方、いますぐ図書館へ足を運びましょう。毎日午前中に1巻ずつ視聴すれば、1ヶ月程度で学び終わることができます。2月はまだまだ先…とごちゃごちゃと思ってしまうかもしれませんが、実はあっという間に試験当日を迎えてしまうようです。「実習忙しいけど勉強して!」「早めに勉強を始めましょう!」「余裕を持って始めるのが大事!」一すべて先輩たちからのメッセージです。後々後悔をしないためにも、ぜひ時間を上手に使って勉強を進めましょう。

4月～5月中旬までに納品された図書・雑誌など

《図書》

『看護六法 平成29年版』『シンプル衛生公衆衛生学 2017』

『公衆衛生マニュアル 2017』

【国家試験関連】

『看護師・看護学生のためのレビューブック 2018』

『系統別看護師国家試験問題集 2018』

『クエスチョン・バンク看護師国家試験問題解説 2018』

『保健師国家試験問題集 2018』

『必修ラ・spa 2018』

《雑誌》 ※下記 OPAC をご参照ください。

<http://www.lib-finder2.net/tohto/servlet/New?findtype=1>

看護・医療系図書が10%OFFで購入できます!

展示販売のお知らせ(前期)

展示販売	納品
4月は終了しました。	
5/9(火)	⇒ 5/16(火)
6/6(火)	⇒ 6/13(火)
7/4(火)	⇒ 7/11(火)

時間 : 12:30 ~ 13:10

場所 : 1F 食堂

書店 : 廣川書店

TEL : 027-322-4804

E-mail : takasaki@hiro-kawa-books.co.jp

※日程変更等生じた場合は、別途お知らせ致します。



Because I am a Girl——わたしは女の子だから

基礎看護学 講師 木村伸子

私はプランというNGOへの支援を通して、エクアドルの1人の少女と昨年までつながっていた。彼女が4歳の頃に縁を持ったのだが、昨年18歳に達したため、今年からはガーナの少女とつながっている。彼女たちは、遠い異国の決して裕福とは言えない地域で、それでも元気に毎日を送っているようである。それは定期的に送られるレポートや手紙、添えられた写真を通して感じ取ることができる。そして私は、自分の子供と同じように、彼女たちが健やかに成長してほしいといつも願っている。だが、当たり前のように毎日学校に通い、そして自分の将来を自由に思い描くことができる自分の子供たち(私も同様に育ってきた)と比べ、世界の子供たち、とくに少女たちの現実には厳しい。

『Because I am a Girl
わたしは女の子だから』
タイム・プッチャーほか著、角田光代訳
英治出版/刊

「Because I am a Girl」この本は、先述のNGOが取り組むキャンペーンの一環として出版された。世界各国の作家が、自らその地に赴いて経験した内容をもとに執筆した小説やルポルタージュのアンソロジーで、作家の角田光代氏が訳している。そして、「わたしは女の子だから」というただそれだけの理由で不当な扱いを受けている少女たちが、現代においてもなお、いわゆる開発途上国と呼ばれる国に多くいるということを知えてくれる。小説は一人称で語られ、1人1人の少女の目線で、「女の子だから」が理由の差別や人権侵害が存在していることを私たちは知る。ルポルタージュでは、作家自身が感じたショックや怒り、無力感を共有し、だが一方で、未来へのかすかな希望も感じることができる。読んだときに抱く感情は、先進国の価値観の押し付けという範疇ではなく、おそらく誰もが「何とかしたい」と思わずにいられないのではないだろうか。それでも実際のところ、私は悲しいほどに無力だ。だが、「知る」ことは間違いなくそのための一歩だと信じている。

さて、私はこの本を娘たちに読んでほしいと願って家に置いた。なぜ置いたのだろう。今になって振り返ると、異国の少女と比べて自分がいかに幸せなのかを再認識し、学業により励んでほしい…というような理由ではなかった。自分の認識している「世界」がいかに狭く、知るべきことが世界にはあふれている、ということに気づいてほしかったのだと思う。

看護学は「人」を対象とする学問である。とかく日々の看護場面では対象とその周辺地域だけにとらわれがちである。だが、人々の生活全体を考えるうえでは、もっと広い視野を持って社会や世界を俯瞰する必要があると私は考える。世界を知る1つのきっかけとして、本は扉をいつも開けてくれている。学生のみなさん、ときには専門書ではない本を手にとってみませんか。

『国立新美術館開館10周年・チェコ文化年事業ミュシャ展』



アル・ヌーヴォーを代表する芸術家のひとり、アルフォンス・ミュシャ(チェコ語発音 ムハ)は、1860年オーストリア領モラヴィア(現チェコ)に誕生し、ウィーンやミュンヘンで経験を積んだ後、27歳でパリへ渡り絵を学びます。34歳のときに手がけた、舞台「ジスモンダ」のポスターが評判となったのをきっかけに、その優美で装飾的な作風は多くの人々を魅了し、現在でも世界中のファンに愛されています。

本展のみどころは、なんとと言ってもミュシャ史上最大規模の《スラヴ叙事詩》。全20点すべてをチェコ国外で公開するのは世界初です。この超大作は、ミュシャが晩年の約16年間を捧げた壮大なプロジェクトから生み出された作品群であり、それぞれの作品が縦6m×横8mという巨大な絵画となっております。この《スラヴ叙事詩》に囲まれた空間は、まるで演劇でも観ているかのような迫力を感じます。その他にも、ミュシャの出世作であるアル・ヌーヴォー作品の数々を展示しており、華やかな女性像を描いた装飾的なポスターなどは、ミュシャの名を一躍有名にしました。ミュシャの故郷チェコと日本の共同プロジェクトとして実現したこの展覧会は、日本とチェコスロバキア(当時)との国交回復60周年を記念した壮大なスケールとなっております。開催は6月5日(月)まで。ぜひ貴方もミュシャの世界へ!

(左上)《スラヴ叙事詩「原故郷のスラヴ民族」》1912年 プラハ市立美術館
Prague City Gallery / (上右)《ヒヤジンス姫》1911年 堺市 / (下左)《スラヴの連帯》1910-11年 プラハ市立美術館 @Prague City Gallery / (下中央)《四つの花「バラ」》1897年 堺市 / (下右)《四つの花「カーネーション」》1897年 堺市



会場：国立新美術館 企画展示室2E(〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2) 会期：2017年3月8日(水)～6月5日(月)
開館時間：午前10時～午後6時 ※入館は開館の30分前まで ※毎週金曜日は午後8時まで 休館日：毎週火曜日
観覧料金：一般1,600円 / 大学生1,200円 / 高校生800円 ※中学生以下無料 ※障がい者とその付き添いの方1名は無料(入場の際に障がい者手帳などを提示ください)
公式サイト：http://www.mucha2017.jp/ お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

初夏



4月下旬、初夏の陽気に沿道の花ハナミズキもみずみずしく花開いていました。いまはすっかり緑輝く姿へと様変わりしています。春を通り越して夏のような暑さが続きますが、みなさまご自愛ください。